

平成29年度

第3回駒ヶ根市総合教育会議

議 事 録

駒ヶ根市教育委員会

平成29年度第3回駒ヶ根市総合教育会議議事日程

平成29年12月12日（火曜日）

駒ヶ根市役所保健センター2階大会議室

午後1時30分 開 会

1 開会

2 あいさつ
市長・教育長

3 協議事項

- (1) 3カ年実施計画（平成30年度～平成32年度）について
- (2) 平成30年度予算について
- (3) その他

4 意見交換

5 その他

次回教育総合会議 開催予定：平成30年4月（平成30年度第1回）

6 閉会

出席者

教育委員会

教 育 長	本 多 俊 夫
教 育 委 員	
教 育 長 職 務 代 理 者	北 原 美 香
教 育 委 員	下 島 公 平
教 育 委 員	福 澤 惣 一
教 育 委 員	唐 澤 浩

市長部局

市 長	杉 本 幸 治
企 画 振 興 課 長	小 澤 一 芳
民 生 部 長	猿 田 孝 弘

市長部局事務局職員

教 育 次 長	小 平 操
子 ど も 課 長	北 澤 英 二
社 会 教 育 課 長	小 出 孝 幸
保 健 セ ン タ ー 所 長	中 坪 美 智 子
幼 児 教 育 係 長	山 本 哲 広
子 育 て 家 庭 教 育 係 長	水 野 毅
教 育 総 務 係 長	山 本 和 重
教 育 総 務 係	小 松 義 知

傍聴者 3名（うち報道機関3名）

会議のてんまつ

議事日程記載のとおり

午後1時30分 開会

○小平教育次長

ただいまから平成29年度第3回の総合教育会議を始めさせていただきます。

本日の進行を務めさせていただきます教育次長の小平です。よろしくお願いいたします。

それでは、最初に杉本市長よりごあいさつをお願いいたします。

○杉本市長

皆様こんにちは。

急に寒くなってしまいまして、いつもより冬が早いのかなと感じております。そして、いよいよ年末も押し迫ってまいりました。本日は第3回目の駒ヶ根市総合教育会議ということでございますが、早いものでもう一年が過ぎてしまうなあと感じております。

本年度も、前回までに昨年の計画を踏まえて事業化したことの内容を話させていただき、また3カ年に向けての懇談をさせていただき本日を迎えております。この間に、特に10月には本多教育長さんに就任していただき、まさに新教育委員会制度が10月から始まったと思っております。より一層、教育委員会と市長部局とで連携を密にしながら進めていきたいと思っております。本多教育長さんも、小木曾教育長さんと同じように熱い思いを持って子どもたちに接していただけたと思っておりますので、教育委員の皆様共々よろしくお願いいたします。

今回の3カ年計画では、特に懸案であった赤穂公民館の建て替えについて一定の方向性を示させていただいております。中々良い補助制度等が見つからなかったわけですが、おかげさまで今回コンパクトシティという補助制度の中から国土交通省の補助制度の適用が見込めるようになりました。ただし、それには期限がありまして、平成31年度までに終了しなければならずタイトな日程になってまいりましたが、今までの御意見を大事にさせていただきながらより良いものにしていきたいと思っております。また教育委員の皆さんにも御助言いただければと思っております。

また、新年度に向けた予算のことなどについてまた意見交換をさせていただいてしっかりとした予算にしていければと思っております。

そうした中で、子どもたちは今年も本当に色々と頑張っていて、特にスポーツでは全国大会に出る子どもも非常に多くなってきておりますし、特に中学駅伝では1位と7秒8秒差であり非常に残念ではございませんが、さらに県縦断駅伝でも頑張っていて、1日目のタイムをひっくり返して1位になりました。

また、コミュニティ・スクール等で取り組んできた成果が認められまして、中沢小学校では、文部科学大臣表彰を受け、今まで取り組んできたことがひとつひとつ成果となって現れてきており感謝を申し上げたいと思います。本日はよろしくお願いいたします。

○小平教育次長

続きまして本多教育長よりごあいさつをお願いします。

○本多教育長

改めまして、こんにちは。第3回総合教育会議ということでお世話になります。10月2日に新教育委員会制度の概要をお配りいただきまして、市長さんと教育委員会とが十分な意思疎通を

図って教育の課題やあるべき姿を共有しながら行っていきたくと思ひます。就任させていただいたときに、「それをするこは子どものためになるか」という話をしましたけれど、それは死ぬまで同じでありまして、言葉を変えれば「内から育つ子ども」を育てたいということでありまして。外側からだと限界がありますが、どんなものでも自分から育つような子どもにしていかなければ何の意味もないなあと思ひています。そのために大人は何ができるか、何をしてやらなきゃいけないかということをお考えれば良いのではないかと思ひております。世の中は「転ばぬ先の杖」をつき過ぎるというようなどころがありはしないかということをお、私自身現場にいたときも思ひておりました。子どものためと思ひて一生懸命条件整備をしてくれているようなんですけれども、そこには子どもはいないというようなど、そういうこは意外とあるのではないかと思ひております。本当に内から育つ実のある子どもに駒ヶ根の子どもたちになつて欲しいなあとということで、こはした会議も充実させていきたくと思ひておりますのでよろしくお願ひいたします。

○小平教育次長

それでは、お手元の次第に沿ひまして会議を進めさせていただきます。

現在、第4次総合計画に基づいて策定されました教育大綱に沿つて事業を進めております。前回の総合教育会議では3カ年実施計画で計画すべき事業などを提案しまして意見交換をさせていただきました。お手元に配布しました駒ヶ根市実施計画、3カ年計画ですが、前回の会議で出ました意見などを踏まえて策定したものです。この実施計画は、本日の主な会議事項となつており、平成30年度の予算編成の指針となるものです。

実施計画につきましては、定例教育会議の中で説明をさせていただいておりますので、本日は説明を省略させていただきます。本日の本題であります平成30年度予算に向けた意見交換の資料としていただければと思ひます。

それでは、平成30年度の予算に向けた意見交換を行いたいと思ひます。平成30年度教育委員会主要事業の取り組み方針を意見交換の参考資料として用意をさせていただきました。3カ年実施計画に計画された事業のうち、平成30年度実施事業を中心に、一部平成30年度以降計画的に事業を進めていくといった主要事業を中心にまとめてあります。資料の中から何点か説明させていただきます。

まず、取り組み方針の1ページの学校教育の推進ですけれども、(1)の学力向上では、小学校外国語が教科となるということからALTの増員などを市単独による学習支援、また(3)の学校施設の整備からでございますけれども、そのイにありますように赤穂小学校の体育館の天井の改修を行います。これよりまして学校施設の耐震改修の全体を終える予定でございます。

おめくりをいただきまして2ページにつきましては、幼児教育の事業、また、3ページには家庭づくり、あるいは妊産婦支援、産後ケアなどに関する事業を進めることとしております。

また、3ページの下段のエル・システム事業ですけれども、29年度から実施をしております。音楽を通じて子どもたちの生きる力を育む事業でございますけれども、30年度、引き続き実施するものでございます。

おめくりをいただいた最後のページ、裏側になりますけれども、6ページの6の生涯学習の推進(2)の地域交流センターの施設整備、赤穂公民館の建てかえ、小ホールの新設などに関するものでございます。

下段の7の(3)は郷土愛を育む活動、あるいは8の(2)には国体への対応などを進めると

してございます。

資料の説明は以上とさせていただきます、これから、今日は参考資料としてお示しをしていますが、新年度予算に向けて意見交換をお願いしたいと思います。

なお、予算以外の項目で意見交換があるという場合につきましては、また後ほど時間をとらせていただきますので、よろしく願いをいたします。

それでは、委員さんのほうからそれぞれ新年度に向けての御意見、御提案等をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

○福澤教育委員

それでは最初に、この最後のほうの7番のところにありますふるさと学習の推進、3番のふるさと学習の推進という部分ですけれども、11月に、キャリア教育の事業で教育基金の講演会と、あと郷土愛プロジェクトによる地域づくり事業というのが行われました。それで、地域の交流会については佐々木さん、佐々木宗一さんが都会にいたんだけど帰ってきて起業をされて、駒ヶ根の子どもたちに魅力を再発見したという話を子どもたちの前で午前中と午後していただきました。それで、24日の日には産学官の組織による郷土愛プロジェクトで、キャリアフェスということで、東中で2回目のフェスティバルがあり、そこでは大勢の大人の皆さんと子どもの皆さんと一緒に行事がされたということで、子どもたちは、やっぱり大人が一生懸命に説明することを真剣に聞いて、説明するほうの大人も真剣に説明するという、常に先生たちと話をしない子どもたちの目が違ったような気がしました。そういった部分で、地域にある企業だとか、地域がどういうところだということを知る部分においては、キャリア教育という部分で、かなりの効果はあったのだと思います。規模がちょっと東中の場合は小さくて、少ないものですから、今度は赤中のほうでこれができないだろうかという、またいろいろ工夫しないとできないと思いますが、ぜひ、これから先、子どもたちにはやはり、自分たちの地域にどういった企業があり、自分はどういう形で地域に貢献できるかということを考えることがとても必要だと思い、ぜひ推進してもらいたいなあとというふうに思います。やっぱり10年後とか15年後、教育というのはそういうことだと思いますが、そのときに、あのときどうだったかということがうんと生きてくると思います。ですから、中学生のときにやるということがうんと大事なあとというふうに思いますので、これから、そういったふるさとを大事にする教育だとか、そういった経験が積めるように、つくってってもらいたいなあとというふうに思います。

○本多教育長

私も福澤さんと同じように11月のキャリア教育にも参加しましたが、子どもたちの感想の中に、地域にこんなに私たちの知らない企業があるとは思わなかったと、中学生なので、これからの自分の生き方の参考にする、というような感想がかなりたくさん出ていました。先ほどふるさと学習という言葉がありましたけれども、キャリア教育もそういう一端を担っているのではないかなあと、私自身も知らない企業が正直ございまして、勉強になったなあとと思います。

あわせてですけれども、この3月に（資料掲示）こういうものが商工振興課から出ておりますが、私、たまたま赤穂公民館のお祭りへ行ったら何気なくこれが置いてありまして、いただいて中をぺらぺらと見たときに、ああ、こんないいものを市で出しているのだということに改めて思ったわけです。教員は転勤するのが、（地元の人はいざ知らず、）かなり多いので、腰かけ的に子どもを教育されてはたまらないわけなんです。転勤してくる先生方は、駒ヶ根を知りたいと思

うけれども、自分の興味ある飲み屋とか、そんな程度からスタートしたりする先生もいれば、神社へちょっと行ってくるというような、歴史的なところにきっかけをつかむ先生もいたりするんですが、こんなにコンパクトにまとまっていて、それで、私ちょっとこの中の言葉が気に入ったのですが、「地域に眠っている歴史の証を求めて、また、豊かな自然や文化、暮らしを実際にゆっくり歩いて、暮らしの道そのものをゆったりとした心持で健康的に歩いたらどうか。」というようなことではありますが、そんな気持ちで、これは歩いてみたら、すごくこの地域を知ることになるのではないかなというふうに思います。ただ、これは、万人向けにできていますので、これを教材化していかないといけないんです。子どもたちにとってどうかというのをするのが、やっぱり先生方。これだけの資料がありますので、そんな工夫もしたりしながら郷土愛につながるふるさと学習というのをもう少し意識的に力を入れていく必要があるのではないかなということを思います。

○杉本市長

やっていてよかったなという感じがしますかね。というのは、今地方創生という言葉を使っていますけれども、結果的にこの地域で育った子どもたちが、今高校を卒業して大学に行って、ほとんど帰ってこない、その地方へ何で帰ってこないかというので、一つ、キャリア教育のほうはですね、上伊那の経営者協会、KOAの向山さんを中心にいろいろやる中で、まず先生たちが地元の企業を知らないじゃないかと、また子どもたちもどんな企業があるか知らないじゃないかと、だから自分が進学するときに、その後どこに勤めようというのに、この上伊那が外れてしまっているのではないかと、そんなことから、まず郷土愛プロジェクトを立ち上げさせていただいて、今まで高校の先生を中心に何回かやらせていただきました。やったら、駒ヶ根でも120集まっていたら、みんなこんなところを知らなかった、子どもたちもこんなに企業があったと知らなかった、今回は中学生、やっぱり中学生からそういった地元の企業を知ること、将来自分は、ああ、こういうところで勤めたいなと思うと、次の進路も目的を持って高校へ行くと思うんですよ。今、高校改革いろいろ問われていますけれども、そのことに関して今経済界の皆さんといろいろ話していますが、やはりこの地域は君たちに任せるので、ぜひ君たちここの地域を守ってくれというメッセージをもっと我々が出さなくちゃいけないのかな、と思っています。それには、まず子どもたちに企業をもっと知っていただくということが本当に重要だと思います。今キャリア教育、KOAの向山さんを中心に積極的にやっていただいております。

それから、そのフットパスですけれども、宮田さんを皆さん御存じですかね。NHKのラジオ深夜便、0時くらいに出ている方で、全国各地で、こういった歴史の道、古道を歩いて歴史を知ろうと、そのことによって地域を知ろうという、そういうことを積極的に進めている宮田先生が今回この駒ヶ根のフットパスにも、今から3～4年前ですね、ふるさとの丘でキックオフミーティングをやりまして、積極的に今、大御食神社中心にしたりしてやっていただいています。

私もこれからの子どもたちには自分たちが生まれ育ったところの歴史とか伝統、文化をまず知ってもらわないと、戻ってくるもたなくなっちゃうかなと、思っていたら、ぜひ子どもたちに地域のことを知ってもらおう、そういうことはうんと重要なかなと思っています。

副読本がありまして、「私たちの郷土」でしたか、あの副読本もそういう意味で地域のことを知ってもらうためにつくっていただいたんですが、それをさらに一歩進めて、先生たちにもやはりこの地域のことを知ってもらわないと、結構いろいろ話していると、先生が「お前、あそこへ行け

る。」という、この一言が、子どもたちにもものすごくインパクトがあると思います。「君はすごいから劇場を目指す」とか、「君はこの会社がいいと思った」、通りたと思ったら、「だったらこういうところ、高校へ行って学んだほうがいいんじゃないか」とか、そういう一言がやはり大きいということなので、これからも、これは駒ヶ根市の子どもたちを育てる、また地域を育てるもの一つに柱にしていきたいなと思っていますので、ぜひ、皆さんにも評価をいただいたので、いろいろと取り組んでいけたらと、そのためにもコミュニティ・スクール等を通じて、またいろいろな人たちがかかわってもらえれば、いいのかなと思います。

今ね、何かと地域のことを知ってもらわないことには、やはり原点はそこかなと、駒ヶ根は駒ヶ根のことを知ってもらい、駒ヶ根のよさをみんなに思ってもらうことによって外へ出ていっても自分の生まれ育った地域を誇りに思えるようにしていくことが一番かなと、そんなふうに私も思っていて、特に3期目に入ってからそれは中心にまちづくりを進めていますので、これからの柱にしていきたいと思っています。また、こればかりではなくて文化もぜひ伝えていきたいんですね。文化面もそうですが、そういった意味では、あとの施設のほうにもかかわってくるかと思っています。そんな思いで今進めていますので、また教育委員の皆さんにもぜひ御理解いただいで一緒に進めてもらえればと思います。

○小平教育次長

これに関して委員さん、どうでしょうか。

○北原教育長職務代理

そのキャリア教育からちょっと外れるかもわからないのですけれども、以前から市長は、いろんな成人式ですとかのごあいさつで、とにかく帰ってきてほしいとお話をされると思うのですが、やはり今、大卒の女の子の就職先というのはとても難しいということを実感に、今年、いろんな方から伺いました。娘がたまたま4月に就職したものですから、娘はそういうことをしたいということで資格持って戻ってきたので就職させていただける場所があったのですが、本当に普通に大学に行ってしまうと、資格がないと、企業が受け入れるところがやはりすごく狭き門だと言われました。今年なんかは本当に売り手市場で、1人に対して2倍、2社ぐらいずつ就職先があると言われている、そんな時期だと思いますが、その中でも、やはり高卒の女の子、短大卒の女の子は割と売り手市場で、大卒の女の子というのは売り手市場じゃないということがありますので、それは本当に教育がとか、市がとか、ということではないと思いますが、企業の皆様も御一緒にお考えいただけるような何かがあるといいのかなと思います。私の時代にはどうということもなかったと思うのですけれども、今ほとんど皆さん大学に行かれる中で、まだそういうことがあるのかなというのをちょっと感じましたので、また何かの折にお願いできればと思います。よろしくお願ひします。

○杉本市長

今、大卒の女子の就職、ものすごく厳しいです。残念ながら。私はそういう意味で一つ提案したいのは、学校の先生はやはり大学卒業した女性の皆さんとしては就職にいいところかなあと考えているので、教育委員会のほうには極力地元の先生を採用してもらいたい、それから、最初の勤めは地元配置してもらいたいと話させてもらって、そこが一つ。

それから今一つの突破口になればいいなと思って進めているのが、IT、駒ヶ根市もおかげさまでケーブルテレビも全部光ファイバーにしたので、今テレワークというのがものすごく進んで

きています。今駒ヶ根駅前にクラウドワークスさんとステラリンクさんと2つの企業が来ていただいております。クラウドワークスさんは本社が恵比寿にありますが、すごい大きな会社で、若い社長さんが始めたころは5～6年くらいですかね、でも今、いろいろの企業のホームページをつくるとか、そういう仕事を全部、ホームページとか、いろいろのITのものをつくるんですよ。そういうのをするのですが、東京じゃなくて、全国の各地で入力などをしてもらうならそこでできるということで、駒ヶ根市もこれからはそういう時代で、今駒ヶ根市で、私がいたときに実績では1人で月10万円の人も出てきていると話していました。仕事はたくさんあるので、もしできればそういうところに正規の職員をこれから採用して、また大きな仕事をするチャンスだというような話を、そこの本社へ行って、働いている女性にお聞きしました。すごい女性が多いんですよ、だから、そういうようなテレワークというようにできれば、また新しい女性の皆さんの働く場所ができるのかなと思っています。

それから、今観光のほうで観光DMO、これから伊南も進めようと思っています。それはどういうことかという、ここのよさを海外とかいろいろに情報発信するのです。そういうような3次産業というのは、やはり新しい女性の皆さんの職場になるのかなと思います。今どうしても2次産業の製造業と女性が入るところだんだん少ないんですよ。新しいそういった第3次産業の中に、女性がかかわれるよなというのがこれから手をつけていきたいというような、そんな思いをしています。

それから、今回JOC Aの青年海外協力協会の皆さんが東京からこっちへ移していただけるので、そう中から地方創生の新しい仕事があれば、特に女性の皆さんを中心とした人材の働く場所になるのかなと思っています。これはこれから取り組まなきゃいけない重要なところですよ。

一番は、女性が帰ってこないのが少子化に歯どめがかからないのです。それ事実なので。

あと、今高校改革なんかを進めているのですが、本当にそのすべての皆さんが大学に行くのがいいのか、地域を支えるために高校を出て働けるようなところも、これからの生き方としては重要じゃないとか、そのようなこともどんどんみんなに進めていかなきゃいけないのかなと思います。この間も教育長さんに「本当に大学に行きたい人は何人ぐらいいるんですかねえ。」と話しました。本当に大学に行くことが幸せなのかどうか、今、人生の生き方いろいろ考えたときに、高校とか短大なら就職がよくて、大学に行くとか就職が悪くてと、だったらいろんな生き方を変えていく、今までの人は何でも学校の先生がいい大学に行っていい会社に勤めるという、そのいいという意味が抽象的で全然わからない。だから、それじゃあもっと、さっき言ったように先生が具体的に「地元にはこういう会社があるから、君はこういうところへ行ったらどうだ。」と、こういうふうに言ってもらったほうがいいと思います。全部戻って来いということも無理だと思いますが、ある程度は羽ばたいていただいても、地域を支える人材というのはそれなりに育てていかないといけない。それがすべて大学に行くだけがいいのかというと、私はそうじゃないような気もするので、これからはそういうところが問われるんじゃないかと思います。さっき言った郷土愛プロジェクトとか、そういうことも全部、そういう意味で本当に自分がやりたいと思うことを子どもたち、さっき先生も内からと言いましたけど、内からの子どもというのは、まずそうだと思うんですよ。成績によってどうこうじゃなくて、いくら成績がよくても自分がやりたいことがあったら、そっちに子どもを行かせるような教育をしてもらえば、本当に一生、ああ、おかげさまに何でもしたと、こうなると思うんで、そういう点では、ぜひ本多教育長さんにそれを進め

てもらって、中学くらいから、将来これになりたいならね、先生からも、うんとよかったけど駒工に行って私はこういうことをしたいという、それでずっと成功しているという話も聞いたりして、今そこら辺が、中学課程の進路指導もそういうために変えていともraitたいと思います。そのためにもキャリア教育とか上伊那経営者協会に見てもらったりして、自分が何になりたいか、それに向かって進路を決めていくという、そうしてもらおうと地域を支える人が育っていくのかなということをととても強く感じています。

○本多教育長

少し戻りますが、先ほどふるさと学習という話をしたときに市長さんのほうから文化のありましたが、今後、ふるさとを知ったり、ふるさとの先人に学ぶというようなときに、どうしてもその場所から博物館のほうへ行きたいというときに、足がないとどうしてもバス利用になるのですが、何を言いたいかといいますと、先日の教育長会議に出たときに大町市の発表がちょっとあったのですが、バスは年に何回使用だと、どこでも決まっていたんですが、大町はそれを取っ払って、校外のバス利用を保障するからと言ったら、平成28年度に小学校は年間107回使ったと、中学校は58回使って、小学校のほうは、1校17.8回平均、中学校は14.5回という、ああ、それだけ自分たちはやっぱり外のところに大事な文化財だとか博物館だとか、そういうところの専門のところでも聞きたいとか学びたいという力を求めるのがあったら、もちろん計画的に子どもと教師が決めていかなきゃならないのですが、年に3回だけだとかという、ああいうくくりが余りにも最初から回数ありきだと、総合的な学習のときにそこら辺で悩んでいると、いいものがあるんだけど、あそこまで行くのに歩いて行くだけで時間がかかって無理と言ってあきらめることがかなりあります。だから、そこら辺のところは、私、自分自身で首を絞めているのかもしれませんが、柔軟になったらありがたいかなあと思います。何か一回やってみて、データとっていただいて、何とかそういう求めに応じていただけるようになれば校外学習もストップするようなことはないかなあという思いがあります。

○唐澤教育委員

ふるさと学習に関連していますが、やっぱり私も、その地域のことを大人が教えるというか、なのですごいいいなと思いました。普段見えているようでも、実際見えていないとか本当に知らないということがあるので、それを知識として教えてもらうことはすごいいいのですが、やっぱりもう一個、その郷土愛ということを考えると、それはやっぱりその知識だけじゃなくて生活の中から生まれてくると思います。我々も高校を卒業するときにも、やっぱり地元に戻ってくる気もなかったし、全然そんなのなかったのですが、うちの子どもが今高3で進路決めるときに、決まる前に学校の先生は、「はっきり決まらないんだったら4年制へ行ったらどうだ」とか、そういう指導もされました。何で自分が戻ってきたのかと、ちょっとはつきりわからないのですが、やっぱり、それは小さいときに何かあったんですよね。地域のことを知っていたとか大人とかかわったとか、それは余りないのですが、今やっぱりふるさと学習というか、そのコミュニティ・スクールですかね、とか地域のお祭りやなんか、そういうことで大人とかかわっていく中でもっといろんなものが知れると思うので、学校以外でも何かそんなようなことがいろいろできていくといいんじゃないかと思います。

○小平教育次長

福澤さん、最後、よろしくお願ひします。

○福澤教育委員

今、学校のために親が稼いで子どものためにお金をどんどん送っていくという、その構図は全体的にほとんどがそうだと思います。苦しい思いをしてみんな稼いでいるわけですね。それがいずれここへ帰ってくればいいんですけど、その仕組みの流れが、何とか変わって豊かになるわけです。町が豊かになるような形というものを、目指していかないとだめだと思います。そういったところもいろいろ考える部分があるかと思いますが、これは一つの手だと思うので、今言われたように、市としてもそういうふうに変えていただきたいと思います。

○杉本市長

企業誘致したくても働き手がないということになると企業は来てくれません。だから、どうしても働く人がいる場所に人も企業も行って、何でも行ってしまうので、やはり今いる子どもたちはここに残ってもらうということを真剣に考えないと、地域が老化してしまうと、もう危機感を持っておりますので、ぜひ、その点は皆さんもよろしく伝えてもらいたいと思います。まだまだ取り組みを進めていかなきゃいけない課題なので、またこれからも、いろいろの機会に、特に、学校教育の果たす役割はものすごく大きいと思うんですよね。いかに先生たちに自分たちの教育をしてもらう、また先生たちからも子どもたちにそういうメッセージを伝えてもらうかということをしていかないといけないのかと思っております。

○小平教育次長

郷土愛のほうはこの辺りでよろしいでしょうか。

では、次に、他に御意見、下島さんいかがでしょうか。

○下島教育委員

今日の資料の4ページの最後のスポーツ推進について一つお願いをしたいと思いますが、国体の関係であります。ここ3年間という直接の事業ではないわけでありましたが、平成39年ということは、もう10年後のことで、まだ10年もあるではないかということではありますが、種目によっては施設が当然大きくかかわってきて、施設と種目とのかかわりがあるわけでありまして。前回はホッケーということで駒ヶ根市が会場になったわけでありまして、市民全体も興味を持っているし、ホッケーがいい悪いではなく、ホッケー自体、非常に競技人口が少ない種目であることは事実だと思います。そういう中で、いずれにしても39年度の国体に向けてどういうふうに取り組んでいくか、また市民の声も反映していくかという、その辺りをちょっとお聞きしたいなあと思います。

○杉本市長

今、県のほうで、近々競技団体ですか、いつになっているのか。

○小出社会教育課長

12月20日です。

○杉本市長

12月20日に、会議を開くようで、そんな場で県のほうでいろいろの何か方針を出してもらえるのかなと思います。それを受けましたら、まず体育協会を中心に少し御議論いただいて進めていただきます。新聞報道を見ると、もう開会式場を長野より松本とお願いしているようです。今度おそらく前と違って新しい種目も幾つかあるんですよね。おそらく既存のところは、また同じ人たちが望むんでしょけれど、それがわからないので、いずれにしても体育協会を含めたり、

また多くの皆さんの意見を聞く中で、誘致できるものなら早目に手を挙げたほうがいいと思いますので、これしたいということを決めたら手を挙げていきたいかなと思います。また、ぜひ御意見ください。特に今、全く白紙です。

○小平教育次長

少しスポーツの話が出ましたので、うちのスポーツの状況を少し紹介をお願いします。

○小出社会教育課長

今ちょうど、駒ヶ根市スポーツ推進計画によってスポーツ事業を実施しているわけですが、その現行の計画、平成25年度に作成しまして、一応34年までの10年間を見通した計画をしておいたわけですが、前半の5年間で終了したものですから、今取り組みの進捗状況や社会情勢の変化に対応するためにも、その見直しということで行っている最中であります。先ほども話がありましたように、東京オリンピック・パラリンピックが平成32年に開催されますし、また国体も39年ということで、市民のスポーツに対する関心というのも今後高まっていくというふうに思われます。そんな中で、今現在、一応スポーツ推進計画の策定委員会を3回ほど実施しまして、その中でアンケート調査等も実施をしてみました。前回の調査と比較して若干その辺りで変わっていた部分ですが、「どの程度の頻度で運動・スポーツをしていますか」という設問があるのですが、その中で「前回週に1、2回」といった方が17%でしたが、今回の調査では30%ぐらいまでその率が上がってきているので、どういったスポーツに取り組む方も少しずつ増えてはいるのではないかなあというふうに思っています。また、スポーツ施設に関しましても、「利用した施設の整備はどうですか」ということで、その割合の中で「充実していた」という割合が、前回10%ということだったのが、3%ほどですが上がっているというような状況で、今そういったさまざまな市民アンケート調査の結果も分析をしながら、スポーツ推進の計画の策定委員の皆さんも御意見を聞きながら、また次の5年間の事業等も検討しているところでございます。

また、御存じのとおり、ハーフマラソンについては、今年4,000名近くのエントリーがございまして、今日現在、全国で2位という評価になっておりますので報告させていただきます。

○小平教育次長

国体に向けて、これから種目等を検討していきますが、また、あわせてこの国体を機にスポーツ振興を進めていくという機会にもしたいというふうに思っています。

下島さん何か御意見ありますでしょうか。

○下島教育委員

はい。結構です。

○小平教育次長

ほか、皆さんございますか。

それでは、続きまして皆さんのほうからお願いいたします。唐澤委員さんお願いします。

○唐澤教育委員

では、毎回ですみません。十二天の森のことを少し。また今度、工事が始まるようで、だんだんこれから先も予算を毎年つけていただいて整備が進んでいくということで大変結構なのですが、やはり今は小さな子どもたちがほとんどで、幼稚園生なんかが来ていますが、一般の市民の人も利用が見えて少ないかなと思います。まだまだ中の間伐というか、もっと手を入れなきゃいけ

ないと私は感じているのですが、それはお金がなくて無理なようであれば、市民とか、子どものボランティアと手を借りるというのもいいのではないかなと思っています。昔みたいに、その間伐というか、小さい木だったら子どもでもできると思うので、そういう整理していくこと自体を体験の場にできるようなことにしていってどうか、と思います。そういう手を借りてみんなで森をつくっていくとか、そのような方向でやったらどうかと感じています。

○杉本市長

ぜひそうしたいなど、私も願うところです。今までつくった遊び場、例えば菅の台のほうなどきれいに整備してしまうと、最初はみんな行きますが、すぐ次のに、とすぐ飽きられてしまうんです。やはり、あそこは自然の中で子どもたちが行って木を切ったり、また自分たちがこうにしたいというのを、どんどん考えてつくってってもらいたいと思います。保護者の皆さんも一緒に行って、そこで工夫して遊ぶ、自然の中で遊ぶ場にしたいというふうに思っていますので、そういうふうに、ぜひこれからもみんなが行ってかかわって、どんどん整備していってもらって、大きなものは市がやりますが、そうじゃないことは大いに木を切って、あそこでチャンバラをしたりして、自分が小っちゃいころはそんな思い出があったりして、そういうのが今うんと懐かしく思っていますから、ぜひそういう形にしてもらいたいと思います。ただ、安全ということだけは考えていければと思いますので、また必要なところは整備しますが、年次、徐々にしていきたいと思っています。今年もライオンズの皆さんが行ってもらいましたね。

何かうまい仕組みをつくったらどうか、何かできればいいけど。少し木を切ってもらってもいいようなところがあれば、何かメッセージを出せばいいのか。

○唐澤教育委員

子どもは子どもで、そういう遊びをするのもまたいいと思いますが、大人はストーブがある人はたき物がほしいと思うし、落ち葉をかくなどはどうでしょう。

○杉本市長

いっぱい混んでいるところがあるので、これは切ってもらっていいよと、印つけできるのかね。

○唐澤教育委員

そういう木の選定はプロに任せるとしても、切ったりして運び出しなら市民でもできると思います。

○小平教育次長

どこまで切るかというのがありますが。

○杉本市長

そういうのはプロにやってもらって、倒したのを持っていってもらうのはいい。いろいろみんなアイデア出してもらって、これからはみんなで作っていく森にしたいと思っています。最低限の雨宿りするところもできたし、あと水道施設やなんかもつくるし。子どもたちが行って、一日あそこで好きに遊んでもらえばいいと思います。

○小平教育次長

ある程度基本的なところは、これで整備できますので。

○杉本市長

いずれにしても、西から入る道をつくったりするのですよね。

今民家の前を通ってきてしまうので、あそこも道をつくりたいと思っているので、そういうの

はみんなにかかわってもらったほうがいいと思いますね。

○唐澤教育委員

さっきのそのふるさと学習じゃないですけども、子どもは子ども、大人は大人という事業は、それはいいのですが、それを一緒にできるようなことは、一緒にやると良いのではないのでしょうか。

○杉本市長

やってもらってもいいと思いますね。全くそのとおりなので、ぜひ教育委員会のほうでもその辺をよく考えてもらって。

○本多教育長

今市長さん一生懸命言っていた、つくっていく森という言葉はいいなと思います。要するに、今までは何でも、お仕着せ、大人がいいと思ってアスレチックみたいなことをやるけど、一年持たないで飽きられます。それで大体端から腐っていくという、どの時代でやってもそうだという、それは大人の発想だからやっているものである、今までの子どもだとか、それを使う者にとって、(私の理想は)遊びと学び、健康と長寿の森になればいいかなというふうには思っています。どういうことかという、十二天というくらいなので、あそこへ行くと12の効用があるよというようなのをみんなで洗い出してみてもどうでしょう。一つは、よく木曾の赤松美林なんかへ行くととても歩くだけでいいというのはなぜかという、ちょっと調べるとフィトンチットというものが木々や自然のところから出るので、ちょっと具合の悪い人や精神的にまいっている人にもとてもいいようです。そのような効用などをしっかり訴えたり、また障がい者の方がああいうところで伐採なんかをやったら、自分たちの仕事場の一つとして働いたり、高齢者が生きがいの場みたいなどころなど、みんなでつくり上げるようなものがあつたらとてもありがたいかなあとと思います。それがあの周辺の人だけじゃなくて、東小の子でも東伊那の子でも、あそこへ行きたいよといったときに、先ほど言ったようなバスがあれば本当に行ける、というような、そういう意味でも先ほどお話をしたかったんですが、もともとあるああいう木々や自然の資源や空間を使って、市の平地林となったということであれば、みんなで考えていただければ、なおさらよりどころになると思います。

上伊那の中でも平地林が唯一残っているのは、大芝高原とこの十二天だけだそうです。前バスに乗っていたらたまたま大学の先生と一緒にあって「ここはすごいね。」とそのようなことを言っておられました。しかし、大芝のほうは観光的になりつつありますが、十二天にはまだ自然やその周辺の馬見塚とつながったり、上のほうとつながったり、発展途上の平地林かなと思うので、ぜひそんなふうになったらありがたいかなあとと思います。

○杉本市長

では教育長さんにお任せします。何でもアイデアを出してください。

馬見塚ともつなげたらいいと思います。あそこは、昔はもっと広がった。まさに古道なんです。今でもあそこへ行くと懐かしい。だから、十二天と馬見塚とずっと周遊するようにつながりたいと思う。そうすればおもしろいと思いますよね。

先生、お願いします。今遊びと健康とかね、非常にいいアイデアいっぱい出ているし、大いに結構なので、ちょっとまた詰めてください。

○下島教育委員

木がいっぱいあるので、炭焼きもできるのではないかな。

○杉本市長

昔は水をきれいにするために炭焼きした炭を入れるプロジェクトずっとやっていましたが、なくなってしまったのですか。あの炭を焼くのは中沢でしたね。だから、今中沢小学校で炭を焼いてもらったら、それを子どもたちが水をきれいにするためにやるとか、そういうふうにしてもらえばみんなかかわるかもしれない。

また教育長さんを中心に、以前にも子どもたちから提言をもらったことがありましたが、また子どもたちの提言、自分たちがこういうしたいという意見もらって、それを一緒に実践したらいい。ぜひ皆さんでアイデア出してもらって、このプロジェクトをいろいろな形で一年続けていってほしいと思います。お願いします。

○小平教育次長

それでは、十二天の森についてはよろしいでしょうか。

次は、北原委員さん。

○北原教育長職務代理

最初の市長の話にあった文化面の件でお願いいたします。

まず赤穂公民館のことで9ページです。赤穂公民館の施設整備の関係ですが、補助金の関係で急遽、平成31年までにということ急ピッチに建設が行われると思います。昨日だったか、文化・芸術振興懇話会でもいろんな御意見がありまして、それぞれ、やはり文化からの面で皆様御意見持っていていらっしゃる方が集まるので、その中でも議論にはなるのですが、やはり金額が大きいものですから、市民の関心となる施設になるのではないかなということ、できたらできただけ使っていけないともったいないと思います。

では使える施設になるためにどうしたらいいかというようなお話もたくさん出ました。その中で、急遽、本当に何年かできてしまうので、今後の設計から建設までに、市民として意見を出させていただきたいという御意見ももちろんありましたので、そして、いざできたときに文化会館と公民館の運営主体の違いによる使い勝手のよさ悪さとか、それから運営はどうしていくのかというようなことを、本当に急ピッチに進んでいかなければいけないのかと思いますが、その辺りの御意見をお聞きしたいと思います。

○杉本市長

公民館ですが、平成23年ころに耐震がないとなって、話させていただきました。かつては、あそこのホールがいろんな発表の場でしたが、今は文化会館ができた。しかしホールが900人、1,000人という集めるのに大変で、なかなか使い勝手が悪いため、中川、宮田、飯島などをみんな使っているという話があり、発表する場としては今の規模のホールが欲しいという話がずっとありました。そこで今回つくる時は、そういうのをぜひ公民館をメインにしたらどうか、と思っていました。それは大体の発想であり、今までも御意見もらう中で、そういうのが必要だという話出てきており、それから少し時間ありましたが、煮詰まっていなかったようで今になってしまっています。皆さん思いがあるかと思うので、ぜひ、事務局のほうでは、いろんなところを見てもらったり、今回やるプロポーザルでは専門的な知識のある業者を早急に決めさせてもらいますので、そういう皆さんと意見交換してもらったりして、積極的に皆さんの意見聞いて、

全部できるかどうかわかりませんが、できる限りはしていきたいと思います。どうせつくるなら使い勝手いいようなものにしたいと思います。

あと、管理運営についてはこれからそのあたりを決めなければいけないのですが、ホールになると専門的な知識を持った人が要るので、そういった意味では文化財団の皆さんのほうがホールに関しては専門的な知識があるので一緒にやってもらったほうがいいのかと思います。公民館自体は、またそういうのとは違うので、まだ全く詰めてありませんので、みんなの意見をもらいながら、と思いますので、どんどんご意見ください。

昨日はどうだったのですか。どんな意見が出たのですか。

○北原教育長職務代理

前回市長が地域懇話会に出られたときにも、あの今度できる公民館がこけたら駒ヶ根市の文化ももう振興していかない、というようなお話もありましたけれども、そこからまただんだん派生していき、公民館という名前の公民館のホールなのか、文化会館の小ホールみたいな位置づけでいくのか、それはまた今後だと思えるんですけども、企画だとか期待できるものがいまはできないと。

○杉本市長

ああいったホールのやり方としていろいろあると思います。芸術監督のような人を置いて、例えば自前の劇団を持ったり、結構大きいところになると自前のオーケストラを持ったり、自分の劇団を持ったりしてやっているのが静岡県ですが、大体みんなだめになってしまった。経営が成り立たないのです。そういうのがあるので、今どちらかというところとそういう方向よりも発表の場として大いに使ってもらいたいというのが多いですかね。

あとは、いろいろの市民団体などが拠点施設としてそこを使っていく、定期的に発表をやるというようなのが多いのではないのでしょうか。やはり駒ヶ根市の芸術いろいろやっている皆さんが定期的にそういうところを使って発表してもらい、いろいろな人が次から次へとそういうところにかかわるようになればいいのかなという思いはしています。だから、これもいろいろのことがあるので、ぜひこれからも駒ヶ根市に合うようなのをまたみんなで、懇話会でも何かそんなことをまた提案してもらいたいと思います。それを踏まえて、また決めさせてもらいます。

○北原教育長職務代理

ぜひ、その施設に関しては、懇話会の皆さんも、こういう照明がいい、音響がいい、みたいなことは意見を出したいという話はしていました。

○杉本市長

今の駒ヶ根市のあのホールは、ものすごい評判がいいんですね。今オーケストラでアンサンブル信州 I N 宮田、私もかかわらせていただいているのですが、ほとんどの人が「こんな音響がいいところはない。」と言います。「規模といい、音響としては最高だ。」と言っています。ただ、あの照明がいけないというところは直させてもらったりしたので、大分今はいいのではないのでしょうか。そういう意味ではノウハウを持っていると思います。

○杉本市長

この辺では、小ホールというと、中川当たりでしょうか。

○小平教育次長

結果的には、中川よりもうちよっというのというのがという御意見で、松本とか、あのぐらいのイメー

ジといいましようか、いいなと思っています。

○杉本市長

松本のどこですか。

○北原教育長職務代理

市民芸術館の小ホールです。

○杉本市長

どんな感じですか。

○北原教育長職務代理

小ホールは小ホールです。

多分この辺では、市民の発表の場としては中川、宮田が使い勝手いいと思います。

○杉本市長

あと、この間も中川も宮田も見させてもらいましたが、両方ともあのバックヤードが寂しいですよ。ホール自体の感じとしては、宮田は前が椅子がとれるのですよね。固定席じゃない。中川は固定席ですよ。

○小平教育次長

中川は固定席です。

○杉本市長

固定にするのか、そこら辺ではないでしょうか。固定席がいいのでしょうか。

○小平教育次長

今は一応固定ということで。

○杉本市長

私は固定のほうがいいような気がします。固定にして、あとはステージの広さと、脇をどのくらいとるかとか。それと楽屋のようなものをどのくらいとるかではないでしょうか。今のところ見させてもらって、その辺りが大分それぞれの時代で違うようです。ただ、そのときに公民館としての併設もうまくできればいいのかなと思っていますけどね。

あとは、音響とか照明とかは一定の基準がありますしね。今のところ文化会館の照明も、そっちのほうの専門の人もいますし。

○北原教育長職務代理

文化会館は昨年30周年になって、その30年たってしまったということで、その音響もいいですし、皆さんからいいと言われている大ホールも、だんだん照明も変えて音響も変えて、としてくる中で、あと何年先まで使えるのかとか、そういう懸念事項もありまして、やはり小ホールに期待するところが多々あるんですけども、昨日一番盛り上がりました題材としては、やはり、運営側のほうのことでした。各市町村に文化会館等があるのですが、やはりこの地元に基づいている文化会館としては、文化会館の独自の事業や、駒ヶ根市としての独自で何かをやっていかないと文化会館として機能していかなくなるというようなお話が多々ありました。そのために、市長がおっしゃるその市民の場もありますし、じゃあ東京からアーティストを呼ぼうとか、いろんな案が出てくる中で、全体をコーディネートできるような運営体制、職員体制というものを少し考えていかなきゃいけないかなという、必要性があるという御意見がございましたので、またその辺も懇話会のほうでも多分意見を出させていただくのだと思いますが、御考慮いただければと

思います。

○杉本市長

煮詰めてもらって、そういう方向性を皆さんも出してもらうと非常にいいですね。なかなか文化っていろいろ分野があるので、じゃあ誰をトップにしてというのは、これが、なかなかね、もう散々いろいろで失敗したところを見てきています。

それともう一つは、運営するにもお金がかかるので、いろいろの人が常に使える**基金的なもの**でないと、なかなか続けるには、文化財団をつくったときにも基金をつくりました。しかし、それっきりになってしまっているの、ぜひ、そういう点もまた検討していけたらいいなと思います。

○北原教育長職務代理

自分で言っていくと、文化財団の運営としてお願いします。

○杉本市長

でも、駒ヶ根市では今サムライナッツさんやエル・システムも始まったりして、子どもたちが中心になっていろいろ芸術活動や文化活動が高まってきていることは間違いないので、ちょうどいいタイミングなのかなあと考えています。その辺は、またね、駒ヶ根の中で十分検討してそのような動きもあわせて、皆さんのほうである程度方向性を出してもらえば、それを大事にしたいと思います。お願いします。

○小平教育次長

それではよろしいですか。

○北原教育長職務代理

はい。ありがとうございます。

○小平教育次長

そのほかは、御意見等ありますでしょうか。

○唐澤教育委員

では公民館のことで、公民館のホールとはまた別に、普段の、講座やサークル活動というものもあると思うのですが、それは、ひとときに比べたら大分利用する人も減っていると思います。赤穂はほとんど分館なので、分館は地区でそれぞれやっていると思うのですが、公民館のそういう活動は、特に若い人がね、昔みたいにそこに集まって何かするということが大分少ないかと思いますが、今度せつかく新しくなるので、皆さんで活用していってもらえるようにしたいと思いますが、何かそんなような新しいことがあればいいなと思います。

○杉本市長

その辺りは、僕が勤めていたころと、会社だとか職場の福利厚生、全然なかったんですね。だから、会社終わって、昔は、もう5時とか6時にはみんな終わっちゃうんだよね。それだから、地域に帰ってきて地域の人たちとのかかわりが強かった。その地域の皆さん何かとスポーツをやるとか、何かをやるというと、公民館を中心とした、そういうのが一応便利ですかね、地域は。ですから、この辺りはものすごく盛んでしたんで、ある意味、スポーツとか、そうじゃなくて昔の赤穂公民館の歴史を見ると、今回の選挙があるのですが、こういう皆さん投票したらいいかというのを公民館の中で議論したんですね、我々の地域はこうあるべきだとかね、そんなような議論した歴史、本を見ると残っていますね。

あとは、公民館を中心に青年団の演劇大会に出ようとかね、それから地区の競技大会を中心に青年団の相撲大会に出ようとかと、みんな地区地区があったんで、今言ったように各地区の分団とか交流というのがものすごい力だった。それが、どんどん会社が福利厚生を充実して会社人間にどんどんしちゃったんで、地域からみんな会社の人間になってしまった。それで、今も若い人たちの勤務時間がとても不規則になって、若い人たちといえは8時くらいで帰ってくる人はなかなかいない。だから、そういう意味で、若い人たちが全く地域から会社のほうに引っ張られてしまって、地域にかかわるような、そういう時間がなくなってしまっているのではないのでしょうか。

この間もある若い人がこの間やめて、「何でやめてしまったのか。」と言ったら、なんせ給料はいいけれども3交代、3日4日夜勤やって、そんなことをやっているんで全然友達ができない、家族とも会話がなくなってしまう、会社へ行っても、そこで何とかすると言ってそこを処理するんだと、一日誰とも話をしない、もう精神的に参ってしまったと。それで、今やめて、普通に5時とか6時には帰れるようになったけど、今その生活のほうが非常にいいとっていました。そういう意味では、地域の受け皿といいますか、逆にこれからは疲れた皆さんが戻ってきたりするので、地域へかかわるような形をつくっていくことが必要になってくるかと思うので、それも今、社会教育課のほうで議論してもらっていますので、そういう中で、やはりもう一回原点に戻って、余りにもカルチャー化し過ぎてしまって困るので、もう少し多くの人がかかわるようにしていかないと、そういう意味では、若い人たちにとっては厳しいのかもしれない。もううちへ帰ってくればたくたで地域にかかわれないという人が多いのではないのでしょうか。今、働き方改革と言われるくらい、本当に日本人は余裕ないのではないのでしょうか。もっともっと余裕あるようにしていかないと、と思います。市の職員も、申しわけないけどと、本当に反省しています。

○唐澤教育委員

文化会館が、外から来る文化の拠点だとしたら、やはり公民館は名目上は、自分たちの地域、駒ヶ根市の文化の拠点というか、そういうことなので、ぜひ若い人たちに行っていただけるようにしたいです。

○杉本市長

かかわってくれる人がどんどん増えてくればいいと思います。

○小平教育次長

ほかに何か御意見はありますか。

○下島教育委員

コミュニティ・スクールの推進の項目ですが、先ほど市長さんあいさつの中で中沢が文部科学大臣賞を受けたということで、大変喜ばしいことだと思います。私も若干、応援隊の中でかかわってみて、中沢のような地域の場合は、やっぱり地域と学校のかかわりというものが非常に大事ですし、PTAの皆様は当然学校にかかわるけれども、我々一住民として学校とかかわれるのは、このコミュニティ・スクール、応援隊を通じてだと思います。結局、応援隊の活動が活発だと、学校もとても盛り上がるし、逆に学校じゃなくて応援隊にかかわると中沢地域自体が非常に何となく盛り上がるという、いい意味での効果が出ていると思っております。そういう意味で、指定校なり準備校で駒ヶ根全体としては取り組んでいるところですが、ボランティア中心の活動ですが、当然何がしの費用もかかるということで、ぜひ、そこへ予算的に御配慮いただけたらと思

ます。

○杉本市長

今、校長裁量の予算をつけたのですよね。この間報告を聞きましたが、中沢の皆さんにいろいろの意味でかかわってもらっています。子どもたちが稲刈りなど農作業も一緒にやるというのはすごくいいことです。子どもたちが一番そこを喜んでいますし、校長先生も非常に喜んでいました。「今までいろいろな学校へ来たけど、こんなにすごいところはない。」と言って喜んでくれたので、ぜひ皆さんで支えてください。お願いします。

○下島教育委員

お願いします。

○小平教育次長

それでは、ほかにはございますか。

○福澤教育委員

いよいよ保育料の無償化というのが話題になってきており、駒ヶ根市でもかなりの軽減措置とか、いろいろとっています。無償化になってくるとどういう影響が出てくるかということで、楽になるのか、逆に予算的には楽になってくるかということですか。その見通しはいかがでしょうか。

○杉本市長

無償化はいいのですが、その無償にした分が、国のほうではその分が財源で補填されているとか、そういうことが今のところ何にもありません。交付税で来ているというだけなので、わかりません。だから、交付税が残念ながら、うち3億も減っているんで、何が補填されるとか、よくわかりませんので、その辺はちょっとまだ、残念ながら厳しいです。

○小平教育次長

そうですね。低所得者については無償化して、その分、交付税で来ている計算になっていますので、今回も、その無償化したのは、そういう交付税の仕組みの中に入ってきて、確実にそのパイが増えて全体、交付率、交付が増えればいいのですが、パイ自体は変えずに、今そういう制度の仕組みにしていますので、駒ヶ根市としては大変厳しいのです。

○杉本市長

そちらも検証して国のほうに何か言っていないといけませんね。

○小平教育次長

そうですね。

○杉本市長

だから、国が全部その財源をこちらにくれるというわけでもないんですよ。

○唐澤教育委員

そういうことなのですね。

○杉本市長

そういうことです。だから、結構今、国が進めるところで、国は、こういう補助制度やりますよ、県もやりますけど、市町村に来ると、なかなかそれが難しいのがいっぱいありますので、市町村が肩がわりしている部分がありますね。ですから、今、消費税などの値上げという話の中に、その中から一定の財源を市町村のほうの財政へ補填します、市町村が今まで独自でやってきた、

そういった福祉や教育のところを補填しますというので話が進んできているのですが、またここに来て、その部分をほかに回すという話が出ているので、ちょっと我々として見ると、一つずつ検証しながら国に必要なことを言っていけないといけないと思っています。

○小平教育次長

よろしいでしょうか。ではほかに何かありますか。

○北原教育長職務代理

毎度伺っておりますエル・システムについてです。

エル・システムの、その目的とすれば、音楽教育を通じて社会性を育むということであったと思います。今年から始まって、最初に市長が5年後にはオーケストラをつくりたい、という話をされたかと思うのですが、今後の展開ですね、1年たった2年目、3年目というのはどういうふうにお考えかということをお聞きしたいです。これは子どもたちのことなものですから、子どもたちがだんだん育って行って子どもでなくなってしまうたり、10年先というと、今やっている子は多分もう大人になってしまうということもあるので、もう1年ずつ考えて、今年は何をするんだ、というように計画を立てたらいいのかなというふうに私は感じています。

エル・システムで今、弦楽教室、東小学校で実施していて、その子どもさんは楽しくされているのですが、親御さんの中で、何となくこう雰囲気、ただでバイオリンが習えるからということをおっしゃって私は耳にしたことがあります。それだと意味がないことで、音楽教育を通じてという目的がありますので、その辺りをうまく、もうちょっと技術につながっていくとか、意識を変えていただくとか、そんなふうな持っていき方、昨日の懇話会の中でも、このエル・システムの教育プログラムを市がやっているということがとても意味があることだ、とみなさんおっしゃいました。個人が始めたわけではなくて。市でやっていただくことで、もっとよりよい子育てになっていくことだと皆さん認識されていますので、その辺りをもう少しうまく御案内ができて、子どもたちもうれしいようなことになったらいいのかなというふうに思います。ですので、来年以降の見解がもしあれば教えてください。

○杉本市長

エル・システムの教え方は、今北原職務代理の言われるとおりで、集団で学ぶ学びだと思えます。日本ではどちらかというと個人で習うのが多いと思います。エル・システムは全体で教えていくんですね。個人で教えるというものではないんです。全体の中で、その音楽の喜びを知って、集団でやる音楽の楽しさを知っていくことでみんなが伸びていくというのやり方なので、そういうところが今までの日本でやってきた教え方と違うのと、エル・システムさんの皆さんは、地域にある資源や財産を大事にしていきたいというので、そういうところにとっても気をつけてくださっています。

「特に弦楽器やなんかにこだわらなくてもいいよ。」ということはお聞きいただいているので、和楽器やなんかも、そういう中で一緒にやってもらえればいいと思うし、そういう点では、私は特にクラシックにこだわっているわけではないので、和楽器も一緒にオーケストラとやってもらえればいいなと思います。子どもたちが、ぜひ集団でやる喜び、みんなでやることの大切さ、それを知ってもらうのがエル・システムの一番の特色かなと思っていますので、ぜひお母さんたちも一緒に楽しんでいただければ。必要なら、私、大人のほうもやってもらいたいと思っています。

相馬もやっていますよね。相馬も、子どもたちだけやっていたけど、大人もやりたいというの

が出てきて、大人たちが練習してオーケストラと一緒に演奏会をやったのでしたよね。ベルリンフィルと、一緒に演奏会をしました。そういう楽しみがいいですね。だから、そういう点では、また違うので、その辺はエル・システムの皆さんにお任せして、皆さんにいろいろな意見を出してもらえば取り入れてくれると思います。楽しみながらやる。お母さんたちもぜひ参加してもらいたいのではないですか。

○小平教育次長

皆さんもやりたい方はということで、親には教えないのですが、子どもから教えてもらう形でお母さん方も一緒にやるという形をとっています。

○杉本市長

ぜひ、そういう人にも一緒にやってもらえればと思います。

○小平教育次長

ほかにはよろしいでしょうか。全体を通じて、よろしいですか。

それでは、そろそろ予定の時間ということになりましたので、この辺で会議のほうをまとめさせていただきますと思います。

○杉本市長

どうも、今日はいろいろとありがとうございました。

今日は、特に教育のあり方と、さらなるあり方みたいなことでいい議論ができたのかなあと思っています。改めて今進めているコミュニティ・スクール、郷土愛プロジェクト、キャリア教育といったことは、これからも大事にしながら、この駒ヶ根で、駒ヶ根全体で子どもを育てているんだということが重要だと思いますので、多くの人にかかわってもらって、また十二天の森にも、そういう意味ではみんなで作っていくという場所にしてもらえれば、みんなつながれるのかなと、そんなふうに思っていますので、今日はいろいろ意見交換できてよかったです。

また、必要な予算等については、また事務局から上がってくると思いますので、また聞かせていただきながら子どもたちのための予算等に心がけていきたいと思っています。

今日はどうもありがとうございました。

○小平教育次長

今市長から申したとおり、また予算編成に入ってまいります、いただきました御意見等、また事務局のほうで検討、調整をしていきたいと思っております。

この次第の最後には書いてありますが、次回の総合教育会議でございますが、また予算編成の結果をもとに、30年度の事業について、あるいはその推進方法等について議論をいただければというふうに思います。4月ごろを予定しておりますが、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、以上をもちまして平成29年度第3回の総合教育会議を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

午後2時49分 閉会